

JAXA の斎藤教授と坪井教授が夫々の分担に合わせ資料 8-1-1 (ASTRO-G の回答) を 7 分弱で説明した後、2 分ほど青江部会長の発言があっただけで、他の委員による質疑応答は無かった。

青江部会長: 以上、追加質問に対する JAXA 側からの回答を頂いた訳で御座いますけれども、更なるご意見ご質問等御座いますればお願い致します。(暫く無言)

如何で御座いでしょうか。(更に暫く無言)

一番最後の点なんですけれども、所謂コストを勘案しての一種のトレードオフと言いましょうか、色んな選択肢の中で、コストミニマイズを図りつつ、信頼性、それからミッションの達成、此処のトレードオフを、こう、全ての局面に当て一度やって居るんだと云う風なお話だと思っんですよネ、多分今のご説明は、其の辺が今迄の此の場に提出されました資料の中には、其の辺のトレードオフのプロセスが、必ずしも分明では無いと言いましょうか、明らかにならなかったんで斯う云う風なご質問が出て来たんじゃないかと云う風に思われるんですネ。で、まあ、二つほどの事例を挙げて頂いて、まあ一種のトレードオフをキチンとやった上でミニマイズを図って居るんだと云うご説明だった訳で御座いますけれども、まあ、どう言ったら良いんでしょう、JAXA の予算が実際問題どうも私思いますに、そんなに潤沢ではなくて、此のプロジェクトは相当厳しい状況に資金の制約が置かれた上で、現場の方々のご努力なさって居ると云う

【議事(1)】電波天文衛星 (ASTRO-G) プロジェクトの事前評価について

のがどうも私の実感と言うんですか、感じなんで、まあ、あの、相当シビアなトレードオフって云うのは為されて居るのかナァって云う様な印象は持って居るんで御座いますけれども、まあ、ご質問なさった方を含めまして、お聞きになって、どんな感じなのかと云う処なんですけれども。(また暫く無言)

ええと、こんな処で追加質問に対するご説明については宜しゅう御座いまいしょうか。じゃあ、ゴニョゴニョ。

それでは評価結果につきましての説明を、(以下省略)

続いて事務局の瀬下補佐が資料 8-1-2 (ASTRO-G 評価結果) を 15 分ほどで説明した後、8 分程の質疑応答があり、評価結果が承認された。

青江部会長: 如何で御座いでしょうか。(暫く無言)

一寸私から一件聞いて宜しいでしょうか。リスク管理の中の、国内外の所謂支援と言いますか連携と言いましょうか協力機関、此れが一つのリスク要因として有る訳ですネ。それで此のゴジション(?)の中にも「外的要因のマネジメント能力が重要である。」と云うご意見を頂いて居る訳ですネ。要は、確かに其処に大きなリスクが有ると言いましょうか、NASA の予算はもうナシ(?) そうだとか、もうバタバタと、こう、所謂、連携の相手方の予算が全滅とでも言いましょうかネ、そう云う事だって有り得る訳ですよネ。まあ、そう云った事にならない様にと云う**外的要因のマネジメント**

能力と云うのは、何をすりゃあ良いんだろうかナァと。丁寧に NASA と一所懸命仲良くすると云う事だけ¹の事なんですか。

JAXA 井上:聞かれたお答えが難しいんですけど、あの、色んな、あの、要するに丁寧と云う言葉に色んな意味が有ると思いますけども、我々からは NASA 側の色んなルートで、矢張り ESA も色んなルーとなり、普段から。例えば NASA とか ESA とは年に 1 回位、向う側の科学の担当者と、我々の JAXA 側の科学の担当者が一緒に協議をする機会を作りましたり、どの研究者レベルでも、色んな国際会議の際に色んなルートを作って行ったり、そう云う努力はして居ります。そう云う意味ではマネジメントと云うものなのかどうか分かりませんが、そう云う努力を常日頃からやっておりますし、それから今は宇宙科学研究本部の中にも、対外協力が、元々は国際担当の役目に置いて参りましたけれども、其の辺も少し強化をして居ります。まあ、相手側が言ってる事ですので、これは若しマネジメントって云う部分と、それから其処が上手く行かなかった時にどう考えるかと云うリスク管理の部分と、両面有ると思って居ります。

青江部会長:はい。

松尾:ご説明有ったんですが、「超根元」って何ですか。

¹ 他人(ひと)に物を頼むと云う事は、何でも共通していると思う。相手に嫌がられない範囲で、出来る限り頻繁に、丁寧に催促する事である。勿論、相手のやりたい事が此方のやって貰いたい事と一致する様に運ぶ事も大切である。

JAXA 坪井:日本語がおかしいんじゃないかって云う指摘が一杯ありますが、ジェットベースと云う言葉が有りまして、其れを訳して。あの、要するにジェットの発生している、出来ている部分、此処を指しています。

松尾:其の「超」と云うイメージと合わない様な気がするんですけど。

JAXA 坪井:あの、若い人達はみんなこれで、(会場一斉にざわついて、発言が聞き取れない。)

松尾:星の事言われて(聞こえない)無い気がする。

林田:先程の外的マネジメントについて、此の機会にお伺いしたいんですが、文部科学省のユクライ(?)の仕組みとして、外国に資金を提供すると云う事は有り得る²んでしょうか。例えば外国の衛星に、日本が開発してセンサを提供すると云う様な事は屡(しばしば)して居りますけれども、今の様なお話ですと、或る国にですネ、アメリカなりヨーロッパに、望遠鏡を置くと云う事を、センサの提供と云う風に捉える事も出来る訳ですね。ですから、例えばアプライドオポチュニティの様なものを発信して、良いプランを募って、斯う云う望遠鏡を立てたいと云う様なプランに対して、日本が資金が提供すると云う事は有り得ない話ではないと思うんですが、予

² 「有り得る」かどうかよりも、発想の原点が違ってはいないか。米欧は衛星を作らなくても衛星で得たデータを使える。日本は米欧の地上観測データを得る事が出来、日本では観測出来ないデータを補完出来る。双方にとって利益が有るので国際協力が行われるのではないか。

算の仕組みとしてそう云う事は可能なんですか。

青江部会長: 多分ですネ、予算の仕組み上の問題としてはですネ、方法論としては不能ではないと云う気がしますネ。あの、会計法上の問題としましてですネ。其れは不能ではない様な気がするんですが、多分、今、JAXA の実施部隊の方は、其れはそれで、折角外国が資金持ってくれようと言ってるんだから、其処は其れでやってくれよと、俺達はやりたい事をやるとでも言いましょうか、勿体無いと言いましょかね、そっちの方が先に多分たつと云うんだと思うんですよネ。それで多分、あの、リスクマネジメントと言いましょか、実質としましては、所謂先程一寸言いました様に、連携先では予算が全滅したと、何処の機関も取れなかったと云うのが最悪のケースですね。其の時でも、自分のお金で以って、非常に簡易な地上局を作る、そう云った風な手を打ちながら、其の、所謂ダメージを、まあ、少しでも少なくすると云うのが多分ダメージコントロールなんですよ。じゃあ無いんですか、あの、雑に言うと。多分そう云う方法で、相手自体にあげると言うよりは、例えば相手機関の敷地を借りて、自分が欲しいものを建てる様な方法で以って対応して行こうと云う風に今は考えて居るんじゃないかと思えます。

JAXA 井上: 捕捉させて頂きます。此れ迄も日本側がお金を出して NASA 側の受信をお願いして、頂いたって事も有りましたし、それから装置をアメリカ側の或るグループに、まあ、お金を、装置を用意して、まあ、部品を買うのと同じ様な考え方で、向こうの研究者も一緒にグループに入って頂いて

一緒にやるという形を、此方側からお金を用意してやって行くって云うのも行った事が御座います。まあ、コシヨッタ (?) 通り、色んなルートをやってみて、中々、最後は此れしか無いって云う処にそう云うやり方をする事は出来ます。

青江部会長: はい。他、如何で御座いましょうか。(暫く無言)

それでは、此れは此れで、此の評価結果表で以って、ご了解頂けると云う事で宜しゅう御座いましょうか。

はい、それでは斯う云う形で宇宙開発委員会の方に報告したいと思えます。